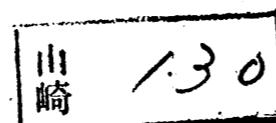


教育使節團關係資料

青少年學校制度概要

青少年教育課



青年學校義務制度概要

一 沿革

- 一 明治三十六年十月 実業補習学校制度創設
- 二 大正十五年四月 青年訓練所制度 創設
- 三 昭和十年四月 実業補習学校ト青年訓練所トシテ統合シ青年學校制度
ヲ創設

一 昭和十四年四月 男子、青年學校義務制ヲ実施シ昭和二十一年以テ完成ス

二 義務対象ト年齢

- 一 国民学校卒業後 実務ニ從事スル男女青年
- 二 十三歳——十九歳 約三〇〇四人

三 義務年限

- 一 普通科——三年
- 二 本 科——五年（四年トスコトヲ得）
X 年

四 義務分量——義務課程ノ履行

- 一 普通各学年 二 一〇時以上
- 二 本 科 〔一、二学年ニ一ヶ時以上
二、三学年ニハロ時以上、
三、四、五学年ニハロ時以上、
六、七学年ニハロ時以上、
八、九学年ニハロ時以上、
十、十一学年ニハロ時以上、
十二、十三学年ニハロ時以上、
十四、十五学年ニハロ時以上、
十六、十七学年ニハロ時以上、
十八、十九学年ニハロ時以上〕

五 就学義務

- 一 保護者ノ義務トス
- 二 使用者ハ使用ニヨリチ義務課程ノ履行ヲ妨ヅルコトヲ得ズ
- 三 青年學校教育ハ公立青年學校ニ於テ行ハルノ外、私立青年學校又ハ青年學校
ノ課程ト同等以上ノ課程ト認定セラレタル教育施設ノ就学ヲ認ム

六、就学免除

精神病、白痴又ハ不具癒疾其他ニムシ得ザル事由アルトキハ免除又ハ猶豫ス

七、義務違反^サに対する罰則

不保護者ニハナレ

八、義務就学者ノ就業時間ニ関スル法律ニ依リ工場法、鉱業法ニ基キ定スル命令、又ハ商店法中就業時間、制限ニ関スル規定ヲ十六才未満者ニ適用シ場合、義務課程履修ノ一日、教授及訓練時間ハ就業時間ト看做ス。

八、設置維持

市町村、青年学校設置、義務アリ、又設備及其維持費用都道府縣
支出スル諸経費以外、校費ヲ負担ス

九、授業料

不徵ク原則トス

青年學校ニ關スル質問要領

(日時昭和三十一年二月二十日十三時十二分三十分並)

質問者、アロカド、口一少佐

應答者、有賀委員、渡辺囑託

問 青年學校數ハ

答 公立ハ約一、三、〇〇〇人、私立ハ約三、〇〇〇人

問 向生徒數ハ

答 男子約二、四、〇〇〇人、女子約一、四、〇〇〇人

問 書面教育者ハ

答 九六%アリハ畫面制

問 独立校舎ハアルカハ

答 約二、七〇校

問 每年入學者數ハ

答 普通科男子約三九、〇〇〇人、女子約五、〇〇〇人、本科男子約五、〇〇〇人

問 每年卒業生數ハ

答 普通科下ニ於キ金員卒業者トナリ前、女子約五、〇〇〇人

問 學校設置者ハ誰カ

答 市町村、市町村學校組合、公共團體及私人

問 私人ハ設置スル場合ハシスルカ

答 設置キタル届出ニヨリ地方長官之ヲ認可ス

問 義務制ハ幾年カ

答 然

問 教員數ハ何程カ

答 約二〇只ママ人、内專任教員ハ男女約五一、〇〇〇人

問 教員ハ生徒ニ教授スルダケカ

答 事務上ニヨリモ參割スル

問 要目ハ誰カ制定スルカ

答 文部省が制定スルモ文部省ハ大學教授ヲ、他ニ以テ委員會、設ケ其一

問 委員會ハ常設か、文部省ニ勤務スルカ

答 否、各自學校等ニ自己、職務ニ從事シ委員會、都於外席

問 視學官ハ計画的ニ視察スルカ、又ト、位視察スルカ

答 文部省視學官ハ少數ニテ充分視察レ難シ、地方視學官、青年教育

官、視學等八年一回位各校ニキ視察スル

問 國民學校長ト青年學校長トハ何トガ權力ガアルカ

答 同様ナリ

問 青年學校費、負担情況ハ

答 國費四九%、府縣費四六%、市町村費一五%ナリ

問 一人当國民學校、中華學校、青年學校別教育費ハ何種力

答 國民學校約五四円、中華學校約二八円、青年學校約二八円ナリ

問 中華學校ハナゼソニニ經費ガカカルカ

答 比較的教員給料、設備等ニ多額、經費ヲ要ス

問 文部省ハ之ヲ補助スル力

答 一人当國民學校兒童約三五円、中華學校生徒約五円、青年學校約一三四ナリ

問 一校、經費ハ誰が決メルカ

答 教員給料等ハ府縣會、其他ハ市町村會ナリ

問 經費ハ市ト町村トハ何レガ力カナカ

答 市部多シ

問 終戰後ドウ變化シタカ

答 教練科ヲ廢止シ修身、地理、歴史ニシテハ一時之ヲ停止シ、其ノ代

公民教育、職業教育ニ重視ヲ置キツツアリ

問 文部省、寄生學校制度ヲ改正スル考カ

答 改正、意志アリ

問 米國、使節團ニ改正案ヲ出ス考カ

答 委員會、後トナルベシ

問 女子、義務制ハ実施スル考カ

答 男女教育、併進上実施スル要アリ

問 學校デ印刷物ヲ發行スルカ

答 資材不足ノタメ日下發行シ難シ

問 授業料八十カ

答 徵收セヌガ原則トシテ之ヲ特ニ要ナル場合ハ地方長官ノ認可ヲ經テ徵收

スルコトヲ得

問 卒業者ハ就職シ易イカ

答 青年學校生徒ハ各自職業ニ從事シツツ修學スルニ以テ特ニセヤウナコト

八十一

以上

昭和二十一年三月四日 午前十時三十分三十六分三三四室

アカウンド・ロイ少佐

有實委員、渡邊

問答

一 國民學校六年修了者か青年學校普通科入學又ルノ力

卒業後中等學校又ハ國民學校高等科等ニ進學セズルモノ

二 國民學校八年制修了者ハドコヘ

本科第一學年へ進學スル

三 研究科及專修科、入學資格

研究科、本科卒業者、專修科ハ兼修シ得ルノミナタス別段、制限ナシ

四 一日、日課何時カラ何時迄カ

地方、實情ニ依リ生徒、出席シ易キ日時ニ於テ教育スルカラ一定シ居ラヌ

例ハ朝九時ヨリ午後四時迄、週六日教育スル所モアリ、午前中或ハ午後三時間乃至四時間教育シ或ハ一週一日朝ヨリ六時間教育スル學校モアリ、多種多様ナリ

五 朝禮ヲ行ヒ、宣城ヲ遙拜スル力

必要アル場合ハ行ク然ニ終戦後、令、モトニ團體的行動ヲナス伍方ハ採用居ラヌ

六 公民科ハ毎日アル力

毎日アルトハ限ラヌカ登校、日ハ成ルベシ課スルコトヲ獎勵シツフアリ

七 公民科テハ法律的常識ヲ授ルノカ

否

共同的社會生活構成者タルト共ニヨリヨリ社會の營繕シ得ルノ必要ナル知識ト之ヲ必要

ナル性格ヲ養フヲ目標トス

八 何ニ依ツテ教授スル力

要目新聞、雜誌、掲載シテ時事問題、終戦前六國定、教科書、用ヒタルス、多シ

九 普通學科トナコトヲ教スル力

國語、理科、數學、音樂、英語三科綜合的教育又、終戦前六國史、地理、關口ヨト

モ教ハタ

一 普通學科、中各科目ハドンナ割合、教育スルノ力

二百十時中五十時間、普通學科ト課スル場合ハ概未、日本語一五時間、數學六時間、理科五時間、國史地理二時間、音樂五時間、英語五時間、割合テナツカ今日、國

史、地理、時間ヲ理科教學ニ充テテ居ル

二 体操科ハ課サヌカ

龍溪中学校に於ける課レシテ居ル

二、職業科ハドンナコトヲ教育スル力

農業、工業、商業、水産、其他生徒、實勢、併教育スル

三、女子、職業科ハ

男子ト同様デアルガ女子ハ特ニ家事及裁縫ヲ媒スルカラコレト總合シテ年一〇時以上トヒテアル

四、本科、教授時数ハ

一二學年八年二〇時以上 三四五學年ハ各一八〇時以上

五、小平青年學校、研究科生徒ハ何人在籍スルカ

二〇人中 三十人

六、男女共學スルカ

メツテ居ラズ

以 上

有賀委員ヨリ青年學校長一人上ヒテ左、希望意見ヲ開陳ス

一、國民學校初等科卒業後中等學校ニ進學セザル者ハ悉ク直ニ青年學校に入學エルコト致シタレ

III - 17

二、勤勞大眾青年ノ教育ヲ主導ナル教育制度が大切ト考ヘル即チ初等科卒業後中等學校ニ進學スル者約二〇% 高等科ニ進學スル者約六〇% 青年學校

普通科ニ入學スル者約二〇% 不才モ高等科卒業者ハ當然青年學校本科ニ入學スルヲ以テ約八〇% 勤勞青年ノ教育ハ是ニ重視アリ

三、卒業生ニ對ニ上級學校入學ノ資格ハ師範學校又青年師範學校ノ三十名之總

テハ上級學校ニ入學ノ資格ヲナシ得ル資格等中學校卒業者ト同様ノ資格ヲ

與ヘラタシ

四、青年學校、校舍其他教育設備ハ甚少貧弱ナリ之ヲ充實ヲ圖リタシ

上、男女教育併進、タゞ女子ノ義務制ヲ急速ニ實施致シタシ

六、青年ヲ產育スル者ニ青年學校ニ就學セシムニ義務ヲ課スルマニ致シタシ

以 上

終ワチアロウツト、ロイナ佐ヨリ

教育便箈圖到着ニ委員會開催セラレタル場合委員會第三日午後三時三五分

ヨリ五時達、間ニ於テ有賀委員ヲ「青年學校」、「スポーツスクール」と申す會丸ヲ

以テ出席アリタシ